



NPO 法人日本防火技術者協会 平成25年度通常総会報告

日時：平成25年1月30日(水)
14:00~15:30

場所：東京理科大学・森戸記念館

議題内容

- 1) 平成24年度事業報告
- 2) 平成25年度活動計画
- 3) 会計報告、予算計画
- 4) 監査報告
- 5) その他

〔総会参加者〕

会員数：134名(総会の定足数68名)

出席者：出席21名、委任状60名
合計81名

〔配付資料〕

- (1) 平成24年度 事業報告書、定款変更について
- (2) 平成25年度事業計画書
- (3) NPO法人日本防火技術者協会活動予定
- (4) NPO法人日本防火技術者協会平成24年度決算書
- (5) 平成24年度 会計貸借対照表
- (6) 平成24年度 会計収支計算書
- (7) 平成24年度 会計財産目録
- (8) 平成25年度 会計収支計算書

〔審議事項〕

- (1) 第一号議案 議長の選任
- (2) 第二号議案 議事録署名人の選任
- (3) 第三号議案 平成24年度活動結果報告
- (4) 第四号議案 平成25年度活動計画
- (5) 第五号議案 平成24年度会計報告
- (6) 第六号議案 平成25年度予算
- (7) 第七号議案 監査報告
- (8) 第八号議案 定款の改正、倫理規定の制定
- (9) 第九号議案 次期理事及び監事の選出
- (10) その他

議事の経過の概要及び議決の結果

審議に先立ち福井潔理事長の挨拶があった。

- (1) 第一号議案 議長の選任
福井潔氏を議長に選任した。
- (2) 第二号議案 議事録署名人の選任
長谷川晃一氏、牧功三氏を選任した。
- (3) 第三号議案 平成24年度活動結果報告
堀田博文総務理事より報告があり、これ

を承認。主な活動内容は以下の通り。

3.1) 防火技術者の国際連携事業

- ① インドネシア支部との国際交流(新宿・六本木、5/26、26人)
- ② 性能設計に関する国際シンポジウム(香港、6/20-22、8人)
- ③ SFPE アジア地区交流会(香港、6/23、6人)

3.2) 調査研究事業

- ① 防火研修会「耐火木造設計方法」セミナー、1/24、森戸記念館、78人
- ② 防火研修会「高齢者」、3/5、森戸記念館、138人
- ③ 講演会「防火技術者の職能と産業分野のリスクマネジメント」、4/20、京大、19人
- ④ 見学研修会「東京駅」、4/23、東京駅、24人
- ⑤ 見学研修会「ヒカリエ」、6/29、ヒカリエ、22人
- ⑥ 防火勉強会「産業防消火」、7/18、東京理科大、13人
- ⑦ 同上、7/25、東京理科大、13人
- ⑧ 消防訓練視察、認知症グループホーム「寿限無」、7/26、八王子市、18人
- ⑨ 出前講座「こぐれの里」、8/16、練馬区、30人
- ⑩ 防火研修会、「高齢者」、9/6、森戸記念館、97人
- ⑪ 同上、9/11、枚方市、82人
- ⑫ 特養施設夜間想定消防訓練、「チェリーコート四街道」、9/18、四街道市、28人
- ⑬ 防火勉強会「スプリンクラー」、10/15、東京理科大、10人
- ⑭ 見学研修会、「清水建設本社ビル」、11/13、清水建設本社ビル、16人
- ⑮ 職能シンポジウム「火災保険制度の日米比較」、「防火技術者認定について」、11/27、森戸記念館、36人
- ⑯ 特養施設夜間想定消防訓練、「こぐれの里」、12/13、練馬区、30人
- ⑰ 見学研修会「米軍横須賀基地消防隊」、12/18、横須賀市、29人

3.3) 防火技術者の連携事業

ホームページメンテナンス、随時

(4) 第四号議案 平成25年度活動計画

堀田総務理事より平成25年度活動計画についての説明があり、これを承認。主な活

動計画は以下の通り。

4.1) 防火啓発事業

老人福祉施設、学校教育施設の避難安全に関する研究会を継続し、特に高齢者施設の避難安全、改善に向けた助言、施設従事者に対する教育プログラムを作成し、成果を出前講座などで紹介する。(6月、他)

4.2) 火災安全の広報事業

一般のビルや公共空間や地下の火災時の状況、避難安全の確保などについて防火技術者の立場から雑誌、ホームページなどで啓発する。(随時)

4.3) 調査研究事業

- ① 防災上特徴のある竣工建築物を、性能設計の視点から調査するとともに、一般市民の啓発を図る。(5月、他)
- ② 建築物の火災安全性と防火技術について、防火研修会により火災安全防火技術者の技術や倫理向上に資する。建築学会、火災学会などとの共催を行う。(3、6、9、11月)

4.4) 防火技術者の連携事業

- ① 防火技術者の技術力向上、倫理維持をめぐりホームページ、Email 配信などにより情報提供と相互連携、技術講習会をおこなう。(各月)
- ② 国際的な交流会に参加する。国際的な問題をテーマとするシンポジウムに講師を招聘・派遣する。(未定)

4.5) 防火技術者の育成及び登録事業

- ① 防火技術者の向上育成と登録申請した者を審査し防火技術者の技能の一定水準を認められた者を審査し当会内に登録する。(10月)

(5) 第五号議案 平成24年度会計報告

中島秀男会計理事より報告があり、これを承認。

(6) 第六号議案 平成25年度予算

中島会計理事より説明があり、これを承認。

(7) 第七号議案 監査報告

高橋太監事より報告がされた。

(8) 第八号議案 定款の改正、倫理規定の制定



福井理事長より定款第5条の特定非営利活動に係る事業として「(8) 防火技術者の育成及び登録」を加えること、及び新たに定める「倫理規定」について説明し、審議。定款については「(8) 防火技術者の育成及び登録の事業」とし、倫理規定については第2条を「(専門性の重視) 防火技術者は、自分の力量が及び範囲の業務を行う。」と修正することで、これを承認。

(9) 第九号議案 次期理事及び監事の選出

定款の規定により平成25年2月28日に理事及び監事全員が任期満了となるため、役員改選の人選について諮り、理事を池田憲一、上原茂男、笠原勲、佐藤博臣、関澤愛、富松太基、原田和典、堀田博文、福井潔、松山賢、中島秀男、山田茂、監事を高橋太とすることを承認した。

(10) その他

堀田総務理事より「防火技術者資格制度」に係る報告があり、東京都へ NPO 法人の定款変更認証申請、定款変更認証後、定款変更の法人登記、法人登記済み届けを経て、資格制度を開始することが承認された。

福井理事長 挨拶

2013年度の総会に当たり、ご挨拶を申し上げます。

今年は日本防火技術者協会創立10周年に当たります。この期を一つの節目として、今年は大きな前進をしたいと考えています。それは長年取り組んで参りました職能資格制度の実施であります。

当協会の設立当初から防火技術者の社会的な認知度を高め、防火技術者が高い技術力と誇りを持って仕事ができる環境づくりが防火技術者協会の目指すひとつの大きなテーマでありました。この問題に対して昨年は引き続き職能ワーキンググループの中で、昨年提示しました制度案をさらに精査するとともに、倫理規定や資格付与の条件や審査の方法など具体的な検討を加えて、制度の設立に向けて取り組んで参りました。こうした長年の努力の集大成として今年度の総会で、制度の実施を提案させていただきます。と思います。

また、今年も引き続き国際的活動に取り組んでまいりたいと思います。グローバル化という大きなうねりの中で、防火技術についても国際的な標準化が進んでいます。

また日本経済の停滞から脱するには建設業界でも海外へ打って出ることが必須ということは共通認識となっています。そのような中で、防火分野においても国際的な活動を経て、日本が世界に後れを取らず、できるなら世界をリードするような防火技術の研鑽が必要と考えております。昨年は6月に香港で開催された SFPE 主催の防火の性能設計に関する国際会議において、SFPE 日本支部で編成したチームによるスーパー超高層ビル設計案を発表しました。またそれに引き続いてアジア地区の SFPE 支部間交流会にも参加して、アジア地区の支部の情報交換を行いました。こうした活動が評価されて10月に開催された SFPE の年次総会で、日本支部が昨年に引き続いて Chapter Excellence Award を受賞しました。今年も、次回 2014 年の SFPE のシンポジウムに向けたケーススタディチームの立ち上げなど、引き続きこうした国際的活動に積極的に取り組んで参りたいと思います。

社会への貢献や啓発活動に関しても昨年は非常に活発な活動が行われました。高齢者施設の WG は、二つの財団から補助金を得て、高齢者施設へ出向いての施設の防火安全確認や出前講座、社会福祉協議会との共催により、高齢者施設の管理に関わる人が多数参加して行われた防火研修会など今までにまして盛んな活動を行っております。来年も引き続き協会の社会貢献の柱としてこうした活動をしていきたいと考えています。

創立から10年を振り返ると、資格制度への取り組み、SFPE 中における日本支部の地位確立、高齢者施設の安全に関する啓蒙活動など、我々の活動が着実に根を張って成長していると思えます。

これから更なる発展に向けての会員の方々の努力で日本防火技術者協会のより一層の発展を願って総会の挨拶としたいと思います。(2013年01月30日)

倫理規定

以下のように倫理規定を定めました。

平成25年1月30日

【前文】

防火技術者は、防火技術が人命や資産を守る重要な技術であることを十分に認識し、業務の履行を通して安全な社会の実現に貢献する。

防火技術者は、その使命を全うするため、品位の向上に努め、技術の研鑽に励み、国際的な視野に立って、相互の文化的価値を尊重するとともに、この倫理規定を遵守し、公正・誠実に行動する。

(公衆の利益の優先)

1. 防火技術者は、公衆の安全、健康及び福祉を最優先に考慮する。

(専門性の重視)

2. 防火技術者は、自分の力量が及び範囲の業務を行う。

(真实性の確保)

3. 防火技術者は、報告、説明又は発表を、客観的でかつ事実に基づいた情報を用いて行う。

(公正かつ誠実な履行)

4. 防火技術者は、公正な分析と判断に基づき、託された業務を誠実に履行する。

(不正や欺瞞の排除)

5. 防火技術者は、不正や欺瞞的行為をしてはならない。

(職能の尊厳)

6. 防火技術者は、倫理と遵法性を尊重し、責任を持って行動することで、職能の名誉と尊厳を維持向上させるよう努める。

防火研修会

「最新の超高層建築と防火設計」 開催予告

- 日時：6月18日(火) 16:00~18:00
- 場所：東京理科大学森戸記念館
- プログラム

- 超高層建築の現在 (福井潔)
- 超高層建築とエレベーター避難 (関澤愛)
- 500m の超高層建築の防火設計 ~ 「2012 SFPE 防火性能設計に関するシンポジウム ケーススタディ」 ~

奮ってご参加ください。

在日米海軍司令部 横須賀基地 消防隊見学会 報告

在日米海軍司令部(CNFJ) 地域統合消防隊課長の長谷川様のご尽力により、実務者として Fire Engineer がいる在日米軍横須賀基地を見学させていただきました。

- 12/18 10:00~13:30
- 防火技術者 イヴァン・ピレット氏に講義していただきました。

「業務の主体は建物の改修工事。設計基準



日本防火技術者協会ニュース

特定非営利活動法人日本防火技術者協会

としては UL、NFPA、UFC(Unified Facilities Criteria)のほか、軍基準がある。一番大事なことから、過剰な設計をしないこと、シンプルにすること、複雑なものを作らないことに心がけている。性能設計ではフレキシビリティ、余裕があるようにしておかないと、一の用途で作ってしまうと不便なものになる。応用が利くようにしている。

基地内の火災による死者は0。住居の台所出火がほとんどだが、スプリンクラーがついているので消火される。被害としては水損がある。」

とのことでした。

見学では基地内のほとんど全域をバスで回っていただき、停泊中の空母等も見られました。



東京理科大学葛飾キャンパス 図書館見学会 報告

- ・3月5日(火)、25名
- ・葛飾キャンパスの要に位置し、1、2階を図書館、3階をホールとしている複合建築です。開放的な図書館の隣にある吹き抜けを昇っていくとトップライトを持つホワイエが出現します。吹き抜けを介した空間の連続性がテーマとのことでした。「ホール全体を宙に浮かしたデザイン」が見事に実現された建物でした。
- ・全館避難安全検証が行われているとのことでしたが、各所に苦労された様子を垣間見ることができました。



理事会等の開催結果

理事会を以下の日に実施しました。
1月10日(木)、1月30日(水)、2月21日(木)、3月25日(月)

会 員

会 員 134名
学生会員 4名
賛助会員 6名
(2013年1月現在)



日本防火技術者協会ニュース

特定非営利活動法人日本防火技術者協会



SFPE・Jニュース
(SFPE 日本支部
の活動 第28号)

SFPE 日本支部 2013年度通常総会報告

日時：平成25年1月30日(水)
14:30~15:00

場所：東京理科大学 森戸記念館

議題内容

- 1) 2012年度事業報告
- 2) 2013年度活動計画
- 3) その他

[2012年度活動報告]

[2013年度活動計画]

1) 国際対応活動

- 6/20-22に香港で開催されたSFPE主催性能設計シンポジウムに参加。性能設計のケーススタディには、韓国とフィンランドが初参加だった。6/23香港におけるアジアにおけるSFPE支部活動の連携のための会議に参加。日本支部の他、初参加したシンガポール支部に加え、台湾支部、香港支部、マレーシア支部、インドネシア支部、韓国支部、オーストラリア、SFPE本部からモーガン・ハーレイ氏が参加。日本支部からは会のチェアマンの関澤副理事長と福井理事長が参加した。次回は2014年にオセアニア地区にて開催予定。
- 10/14-19にSFPE本部総会と付帯行事がジョージア州サバナで開催。日本支部がSFPE Chapter Excellence Awardsのブロンズ賞を受賞したが、日本支部からは参加を見合わせた。
- 2013年度はインドネシアでアジア・オセアニア地区支部間の交流会が開催される予定。

2) 防火技術職能WG

- メンバーは、富松(主査)、笠原、佐藤、堀田、角谷、中島、牧、小林、原田、仲谷、水野、宇山、栗岡、福井。
- WGは2/15、4/13、6/5、8/31、10/01、10/23(6回)開催。
- 場所を東京理科大学GCOEオフィス(九段校舎)で固定し、「防火技術者の資格制度」などについて検討し、広く意見を聞く機会を持った。
- 「防火技術者の資格」の認定制度についての詳細の検討を行い、「JAFPE防火技術者資格制度」(総会提案案)を作成。

また関連して「倫理規定」も作成した。

- 産業消防火と防火技術者の職能に関連して、火災保険制度(米国と日本の比較)と防火技術者の役割について講師として、重岡(セーフティリソース)氏に2回、牧氏にスプリンクラーについて1回、勉強会を開催した。(7/18、7/25、10/15)
- 11/27には、重岡氏による日米の保険制度の比較に関する講演会と、JAFPE防火技術者資格制度のシンポジウムを森戸記念館で開催。
- 2013年度は理事会で関連規定などの承認を受け、制度の詳細、関連資料の準備、資格制度の制定とJAFPE防火技術者の認定を目指す。

3) 老人福祉施設に関するWG

- メンバーは佐藤(主査)、仲谷、笠原、栗岡、建部、富松、大西、関澤、小林、堀田、宇山、山村、村井。東京理科大や神戸大学の学生も適宜参加。
- WGは9回(1/31、2/20、4/16、5/15、6/27、8/1、9/25、10/29、12/4)、東京理科大学小林教授室にて開催。(夜間消防・避難訓練マニュアルの検討、ビデオ教材の検討、施設防災対策アンケート・防火研修会参加者アンケート・訓練参加者アンケート票の作成および研修会などで同票を配布、分析検討など)
- 3/5に第3回の防火研修会「高齢者施設の火災安全確保について考える」を森戸記念館で開催。東京理科大学G-COE共催、東京都社会福祉協議会後援で施設関係者130名参加。
- ほぼ同じ内容の講義を9/6に第4回の研修会を同会場(施設関係者87人参加)で、9/11には枚方市で第5回の研修会(施設関係者78人参加)を開催。施設関係者との活発な意見交換も行った。
- 出前講座をユニット型特別養護老人ホーム「こくれの里」で8/16に開催、訓練状況の観察・計測も行った。教育効果を確認するために、12/12の訓練に際して追加観察・計測を行った。
- 有料老人ホーム「チェリーコート四街道」にて9/18に訓練状況の観察、計測。
- 認知症GH「寿限無」消防・避難訓練状況を7/26に視察。
- 10/31にサービス付き高齢者向け住宅「Cアミュー多摩川」の見学・討議。
- 11/16、17に神戸市周辺の4施設特別養護老人ホーム「けま喜楽苑」、「須磨シニアコミュニティ」、認知症GH「モンファミユ北六甲」、有料老人ホーム「神戸ゆうゆうの里」を見学、討議。
- 2013年度は、地方の施設で出前講座を積極的に実施する。さらにアンケートの分析やマニュアル類などの精査・向上を行う。

4) ルートCの標準化WG

- 「避難安全検証法(ルートC)の標準化WG」を5月に創設。メンバーは山口純一(主査)、池田由華、井田卓造、大宮喜文、佐野友紀、高橋済、竹市尚広、田村祐介、長岡勉、中道明子、仁井大策、萩原一郎、松下敏幸、水落秀木、水野雅之、吉田俊之、山田茂
- WGは8回(5/28、6/25、7/30、8/29、9/24、10/29、11/30、12/27)開催。
- 高度な手法を用いた性能評価(ルートC)の円滑な運用を目指し、現状の課題の整理(運用的側面、技術的側面、その他)した上で、より好ましい性能評価を行うための具体的な方法として、①運用ガイドラインの作成、②避難開始時間等の標準的な計算法の検討などを提案、実施することが目的。

5) SFPE ケーススタディWG

- 6/20-22に開催された第9回性能設計と火災安全設計法に関する国際会議(香港)にケーススタディの発表に向けてWGを組織し活動した。課題は490mの住宅、事務所、商業からなる超高層ビルの防火設計。中間避難階の設置による全館避難をしない計画案を発表した。
- 2013年は2014年に開かれる次の国際会議(オセアニア地区で開催)のケーススタディに参加すべくWGを立ち上げる。

6) 防火研修会(事業WG)

- 高齢者施設向けの防火研修会を3月、9月、9月に3回開催。
- 会員向けの防火研修会を1月、11月に開催し、4月に京都大学と共催の講演会を開催した。2013年度は、防火研修会4回開催の予定。

7) 最新建物の見学研修会(事業WG)

- 4月、6月、11月、12月に計4回の見学会を開催。
- 2013年度は見学研修会3回開催予定。

8) 広報活動

- SFPE-Jニュースはそのまま「NPO法人日本防火技術者協会」の広報ともなり日本防火技術者協会ニュース(JAFPEニュース)の一部に掲載。26~27号2回発行。
- 2013年度は、JAFPEニュース3回発行予定。

9) 防火技術者の育成及び登録

- 2013年10月に防火技術者の向上育成と登録申請した者を審査し防火技術者の技能の一定水準を認められた者を審査し当会内に登録する予定。



**Journal of
Fire Protection Engineering
Vol.23, No.1, February 2013**

■ A Monte Carlo analysis of the effect of heat release rate uncertainty on available safe egress time (発熱速度が安全に避難できる時間に及ぼす影響に関するモンテカルロ法による分析) *Depeng Kong, Nils Johansson, Patrick van Hees, Shouxiang Lu, and Siuming Lo*

■ Treatment of evacuation time uncertainty using polynomial chaos expansion (多項式のカオス展開を用いた避難時間の不確かさ) *Qimiao Xie, Shouxiang Lu, Depeng Kong, and Jinhui Wang*

■ A comparative study assessing factors that influence home fire casualties and fatalities using state fire incident data (火災事例を用いた住宅火災の損害と火災死に影響を及ぼす因子の比較検討) *Austin Anderson and Ofodike A Ezekoye*

<http://jfe.sagepub.com/>

**Fire Protection Engineering
4TH Quarter 2012**

■ A Roundtable Discussion on Fire Research : Six researchers recently discussed how FPEs can benefit from and provide benefit to fire protection research efforts. (火災研究に関する議論:防火技術者はどこから利益を得るか、防火研究の成果をどうやって利益につなげるかについての6人の研究者による討論) *William E. Koffel, P.E., FSFPE*

■ Lithium-Ion Battery Hazards : Fire protection strategies for mitigating the hazards presented by Li-ion batteries. (リチウムイオン電池の危険性 : リチウムイオンの危険性を低減するための防火対策) *R.Thomas Long, P.E., Michael Kahn, Ph.D. (both with Exponent Failure Analysis Associates), and Celina Mikalajczak, P.E. (a battery consultant)*

■ Bridging Installation Standards and Fire Protection Engineering : Recent Research at the Fire Protection Research Foundation - How does a legacy of fire safety principles inherent in prescriptive codes and standards enable and complement an increasingly capable fire safety engineering profession? (設置基準と防火工学の橋渡し : Fire Protection Research Foundation における最近の研究 - 火災安全工学の専門家に対して、仕様基準を持つ本来の火災安全の原則をいかに役立てるか?) *Kathleen Almand, P.E., FSFPE, Fire Protection Research Foundation*

■ Fire Safety Engineering Education - Part of a Certification Framework : Efforts in Australia to improve fire safety engineering design education and establish certification. (火災安全工学の教育 - 検定制度 : オーストラリアにおける火災安全設計の教育と検定制度の構築) *Peter Johnson, C.P.Eng., Arup*

**Fire Protection Engineering
1ST Quarter 2013**

■ Airport Terminal Design - Fire Safety Issues : A case study of the fire safety design for Dublin Airport's Terminal 2, with emphasis on the Qualitative Design Review (QDR) phase. (空港ターミナルの火災安全設計: Dublin 空港ターミナル2における火災安全設計のケーススタディ) *Barbara Lane, Ph.D., CEng., William Ward, and John Noone, all with Arup*

■ Fire Protection of Historic Piers : Best practices for protection recreational and industrial historic piers. (歴史的な埠頭の防火対策: 観光及び工業的に歴史価値のある埠頭の最適な防火対策) *John T. Ivison, P.Eng., John Ivison and Associates LTD.*

■ Challenges of Aircraft Hangar Fire Protection : The Development and Use of a Modern Standard : Guidance for applying NFPA409, Standard on Aircraft Hangars, during the fire safety design phase. (航空機の格納庫における防火対策への挑戦: 新しい基準の開発と適用: 火災安全設計段階における NFPA409 適用のためのガイダンス) *Michael E. Aaron, P.E., Rolf Jansen & Associates*

■ Research-Derived Aircraft Fire Safety Improvements (2000-2010) How research has led to improved thermal acoustic and composite materials safety, as well as prevention of fuel tank explosions and lithium battery fire hazards. (2000年~2010年の航空機の火災安全性向上: 温度、遮音、複合材料の開発、燃料タンクの爆発防止、リチウムイオン電池の火災危険などの研究開発) *Constantine Sarkos, Federal Aviation Administration*